

テーマ	主な論点	委員会の意見(中間答申内容より)
「文化」か 「観光」か	だんじり文化の維持・継承及びそれに関する情報発信や誘客に関する取組は、「文化」と「観光」のどちらに軸足を置くべきか	- 元来、地域の伝統的な文化や祭りは、その地域に暮らす人々の生活や歴史の積み重ねの上に成立するものです - 祭り町の人々が自らの文化を楽しみながら将来に受け継いでいくことを第一に考えるべきです ダンジリ行事の魅力を発信し、より多くの市民や来訪者に、行事を支える力となって頂くように観光の視点での取組も大切です
無形民俗文化財としての維持・継承	ダンジリ行事に対する認知度の向上、興味・関心の喚起及びダンジリ行事への参画機運の醸成をどのように図るべきか ※「祭事期間(3日)」と「祭事期間以外(362日)」に分けて検討	「祭事期間(3日)」：担い手(曳き手や囃子手など)の確保について 祭り町以外の人を担い手として確保する取組を一体的に進める事が大切です - ダンジリ行事の魅力に共感し、継続的に関わる人々(ファンやサポーター)を増やす事が大切です - 祭り町以外の参加意欲のある市民も行事に参画しやすい環境をつくることが大切です 「祭事期間以外(362日)」 - ファンやサポーターがだんじり文化の魅力をより深く理解し、ダンジリ行事の担い手の想いに触れる機会をつくる取組が大切です
有形文化財の保存・保護	有形文化財の最適な保存・管理・活用の方法とは	文化財の材質や種類に合わせた最適な環境条件のもとでの保存・管理が必要です - その上で、有形文化財の「活用」については、文化財の負担とならない、適切な方法を取ることが必要です 学芸員による企画展示や解説などを通じて、その歴史的背景や魅力を伝え、総合的な理解を促す工夫も必要です

中間とりまとめ

市の指定管理業務として提供する行政サービスをはじめ、現在のだんじり会館において公民が取り組む活動は、適切かつ十分であるとはいえません

【あるべき姿】

改善・見直しの方向性

文化振興によるまちづくりの全体像

現状の場所、役割分担及び手法に拘ることなく、市の文化振興全体の観点から、他の文化振興施策と可能な限り一体的かつ有機的に行うべき

【あるべき姿】

だんじり会館の建物及び所在する場所の利活用

他の公共施設や観光関連施設等の機能を補完し、市民と市外からの来訪者の両方にとって有益となる方策を幅広く検討するべき